

令和7年10月29日開催 第1回

超低出生時代を迎えた津久見市の小学校の在り方検討委員会

会 議 録

1 日時会場 開 会 令和7年10月29日 (水) 14時00分
閉 会 同上 15時45分
会 場 津久見市民図書館2階 会議室

2 出席状況 委 員 出席者 委 員 長 住 岡 敏 弘
副 委 員 長 石 堂 克 己
委 員 松 本 晃
委 員 麻 生 仁 見
委 員 甲 斐 みどり
委 員 土 谷 陽 史
委 員 今 泉 克 敏
委 員 吉 田 博 之
委 員 濱 野 克 公
委 員 江 藤 靖 雅
欠席者 委 員 成 松 親 善
委 員 玉野井 里 穂

作業部会 出席者 学校教育課指導主事 後 藤 龍太郎
学校教育課指導主事 竹 田 順 和
経営政策課 主 幹 川 野 慎 司
社会福祉課 主 幹 高 野 龍

事務局 出席者 管 理 課 長 宗 篤 史
管理課 主 事 佐 藤 ひかり

傍聴者 1 名

記者 2 社

- 3 議事等の概要
1. 開会
 2. 教育長あいさつ ※含む設置要綱の説明
 3. 議事等
 - (1) 委嘱状交付
 - (2) 委員長並びに副委員長の互選
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 諮問
 - (5) これまでの経過や現状等についての説明(事務局)
 - (6) 意見交換
 - (7) 今後の予定についての説明(事務局)
 4. その他
 - (1) 委員謝金等について
 5. 閉会

4 会議の内容(要点まとめ)

開会

(事務局より開会)

要綱より本検討委員会は津久見市教育委員会会議規則を準用し公開。

教育長あいさつ

設置要綱より概要を説明

委員等紹介

(1) 委嘱状交付

代表し大分大学教育学部の住岡敏弘先生に教育長より交付

(2) 委員長並びに副委員長の互選

委員長に住岡敏弘先生、副委員長には石堂克己専務理事を選任。

(3) 委員長あいさつ

(4) 諮問

代表し住岡委員長が教育長より諮問

住岡委員長に議事進行を依頼。議事録署名委員に松本晃委員を指名。

(5) これまでの経過や現状等についての説明

(事務局)

平成 16 年度に立ち上げた「津久見市学校適正配置・学校給食検討委員会」より、小学校について「少なくとも各学年複式学級編制にならない規模であること」の提言がなされた。

これを受けて、津久見市教育委員会では平成 17 年 3 月 31 日付けで資料 1「津久見市立小中学校適正規模、適正配置等についての基本方針」をまとめた。

資料 2 の平成 17 年度から令和 7 年度までの学校統廃合（津久見市立小中学校）の推移は、小学校については平成 17 年当時 9 小学校あったが、現在は 5 校となっている。参考までに中学校は、平成 17 年当時 6 校であったが、現在は 2 校となっている。また、第一中学校と第二中学校の統合については、「中学校統合検討委員会」の立ち上げから 7 年の歳月を要している。

資料 3 津久見市内小学校新入生調べについて、市内どの小学校の新入生も減少していく。市全体の新入生は、令和 10 年度までは 50 人以上だが、令和 11 年以降は 40 人前後になると予想されている。

資料 4 の小学校の学級編成について、複式学級の編成は、大分県の基準によると、2 つの学年が 14 人以下であれば複式を編成することとなっている。今年度、堅徳小学校 2 年生が 7 名、3 年生が 5 名で合計 12 名となり、県の基準により複式学級となっている。

資料 5 本市の学力状況について、概ね全国値を超えており、良い状況と判断できる。要因としては、教科担任制の導入が考えられる。

資料 6 体力の状況について、種目結果及び「運動が好き」と答えた児童の割合がともに全国に比べても高い水準にある。要因としては、体育専科の先生が、全ての小学校に授業支援を行うことができているため、専門性の高い授業が行えていることが一つ。もう一つは、各小学校で「1 校 1 実践」という、苦手な分野への取組による成果が表れているのではないかと。

(社会福祉課)

資料 7 津久見市の保護者ニーズについて、「第 3 期津久見市子ども・子育て支援事業計画」を作成時に実施した調査結果では、教育環境を理由に転出を検討する意見が見られた。

(委員)

補足の説明として、前回の平成30年の調査より、「転出を考えている」という意見の方が増えている。保護者の意見を酌み取っていかなければならない。スピード感を持って検討していただきたい。

(委員)

近隣の市町村の学力は全国水準と比べてどうか。

(事務局)

正確な数値はないが、臼杵市に関しては全国水準を超え、津久見市より少し上回っている。

(6) 意見交換

①超低出生時代を迎えた津久見市の今後10年間の小学校のあり方について

(副委員長)

1年間の出生数はどのくらいか。

(社会福祉課)

資料3を見ると、最近の出生数が大体わかる。今年は46人の予定。

(委員)

資料3は、5年後の令和11年の1～6年生の児童数になる。そう考えると、1学年10人前後の学校が多くなる。

(委員)

以前、民間の方から、スピード感をもって1つに集中し、そこに人と物とお金を使う。そうしないと民間は潰れると言われた。多くの保護者はその感覚のある方が圧倒的に多く、保護者に対してスピーディーに解決策を示さないとならない。

今の児童数だと、体育の授業ではチームで行うスポーツが1学年でできない。会議で検討するだけでなく、保護者アンケートを行い、早急に検討すべきで、あまり時間はないのではないかと。

(委員長)

児童が少ない数で分散していく中で、ある程度の規模の学校が必要になってくるといことで、小学校がまとまることの必要性について、早急にやっていくことが求め

られるという意見だが、その事については、保護者の方へ意見聴取を行うことが再度必要だと思う。

今後10年間を見た時に、委員の皆さんはどう考えるか。

(委員)

市の財政を預かる立場から、出生数少ない中で、それぞれの学校に投資するより、1校に集中的に投資した方がよりよい教育環境が提供できるのではないかと感じた。

(委員)

子どもの出生数が少ないため、学校統合も視野に入れられないといけない。津久見中学校の統合検討委員会から参加しているが、小学校も統合となれば、保護者の意見を聞き、予算は考えずよりよいものを作って欲しい。これからの人にお金をかけていただきたい。できる限り自分も保護者の意見を聞きながら動きたい。

(委員)

適正規模・配置の基本方針が既にあるが、この検討委員会で全て諮るということか。

(事務局)

基本方針はあくまで学校単位で考えられている。現在の40人前後の出生数の中で、4校を維持もしくは統合かは、これまでの学校単位ではなく、市全体で検討しないといけない。そのために今回検討委員会を設置し、市内小学校全体のあり方をどうしていくかを話し合っていただければと考えている。

(委員)

保護者意見として、津久見市の現状としては、教育や育児の現場などあまり良くない。だから、自分の周りもどんどん市外へ引っ越している。このままでは子どものためにならないからと言う方がいる。この状況は、民間企業の場合、既につぶれている。つぶれそうだからスピード感を持つのではなく、再復活させる気持ちと改革がいると思う。

(委員)

学校を預かる立場としては、学習指導要領改訂に向け中間まとめがあり、文科省の説明会に行ってきた。やはり、令和の日本型学校教育を踏襲する。今後のポイントは共同的な学びが強化され続けていくとのこと。いろいろな思考力をつける際に、集団思考力が学校教育の中で非常に重要。ある程度の規模の集団数から生み出される質の高い教育が、今後ますます求められる。

(委 員)

出生数をみると統合は、これから先考えないといけないと思うが、「小児科や産科がない」「進学に不便」という意見が多いのでそこを変えないといけないと思う。そうしないと統合しても転出する人は増えると思う。

(副委員長)

この委員会で方針が決まったら、それが決定事項となるのか。

(事務局)

この検討委員会としては、教育長に対して答申を出すことが目的。答申の内容を市長部局と共有して、設置者である津久見市が、今後どうするかを再度検討することになる。

②魅力ある小学校づくりや質の高い小学校教育を提供できる環境づくりについて

(委 員)

先日、全国及び大分県が実施した学力調査において、津久見小学校が好成績校として公表された。同校の学力が低迷していた時期に取り組んだ学力向上の取組が、現在では全国的に取り組まれている「小学校教科担任制」で、津久見市は令和元年度から導入している。しかし、小学校の教科担任制は、推進教育の加配による増員が必要で、その対象は児童が一定数いる学校となる。学校教育課として、これからも子どもたちの学力を保障するためにも、小学校教科担任制を継続したい。

(委 員)

保護者の方々は、魅力ある小学校づくり・質の高い小学校教育として何を求めるか。

(委 員)

学力は学校に行かなくても身につけることはできる。少人数だからこそ学べることもあるが、たくさんの方がいる集団生活の中で心が磨かれることが大事だと思う。

(委 員)

私もあまり学力はそこまで求めておらず、友達との人間関係が社会出てから一番大事になると思う。

(委 員)

私も学力はあまり重きを置いたことはない。それより学校に楽しく行くことや、友

達との関係などを学んでくれる方がいい。

(委 員)

先程学力について話したが、今は学力だけでなく、知・徳・体を育成し、共同的・個別最適な学ぶことが令和の日本型学校教育である。誤解を与えてしまうと思い説明した。

(委 員)

今後の予定に意向調査とあるが、保護者意見を聞いて判断し検討する形で良いと思う。

(委 員)

全国的に低学年を中心として校内暴力が急速に増えている。文科省の分析などを見ると教員が足りず、人材育成が間にあっていない。津久見市にはベテラン教員が極めて少ない。他所から来てもらわないといけない。

津久見に残りたいという教員と意見交換をする中で、最新の教育を求めたいなど向上心の高い教員がいる。そういうものを津久見市で実現できれば。

2 学期制やカスハラ対策など、県の最先端の施策が津久見市にはあって、津久見市に魅力を感じる教員は増えているが、I C T 関係など最先端の環境がかなり厳しいというのが津久見市の現状。お金の使い方で人を引き止めなければならない。ベテランがいないと荒れていくと思う。

(委 員)

同学年に複数の先生がいて、先輩が後輩を指導して、次の指導できる先生作る。子どもを集めると自動的に先生も集まる。ベテランが少ない場合だと、複数の学校に割り振られてしまう。今、人など集中することについて、考える時期に差し掛かっていると感じる。

(委員長)

自分も学生を送り出している。学生も初任で自分 1 人だけでやっていたら、ペースがわからず不安だと言っていた。同じ学年に先生がいて、話し合うことができる。複数のクラスがあることは、若手教員にとっても良い環境だと思う。

③あらゆる角度や統合するとなった際に懸念されること

(委員長)

テーマと離れるが、保戸島中学校が休校後、再度開校しているが、現在休校中の地

区に子どもがいる場合、また開校する可能性もあるため、休校にしているのか。

(事務局)

現在、休校中の校区の子どもは、千怒小学校、津久見中学校に校区を指定している。開校することは教育委員会として考えていない。

(委員)

地域が廃校で良いとの判断であれば廃校の手続きを行うのではないか。

(委員)

あくまで保戸島は離島になるため特例ということだと思う。

(事務局)

昨年度、日代小中学校と長目小学校は廃校の手続きを行った。他の休校中の学校についても、地域とどういう話になるかわからないが、休校から10年以上経過している学校もあるため、相談していかなければならない。

(委員)

文科省の「公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」が策定されて10年経過している。国としても、個別最適な学びと共同的な学びを一体的に充実させたい一方、我が国における少子化、人口減少が著しく、また教師不足なども課題として捉え検討が進められている。学校教育課としても注視して、考えていきたい。

(委員)

各地区へ地域懇談会に回った際、地区によっては学校統合を反対する意見もある。

(委員)

今年の夏、トップセミナーという国が主導する会議があり参加した。そこで出た意見で「子ども食堂」を今国は「みんなの食堂」に変え、CMを流している。子ども食堂というのは、何か問題があって、なかなか家で食事ができない方に社会的に支援しましょうというもの。しかし、国が今伝えていることは、「子ども食堂」は、本当は無い方がいいということ。

全国的に学校の統廃合が増えている。そこで国の方は、「みんなの食堂」という形にして、それを1つの地域コミュニティの場にしていく必要があるのではないかとこの講演を受けてきた。

「今、小学校が地域コミュニティの場になっているのか」と聞かれた。時代の流れ

だが、今の学校はセキュリティの関係などで、放課後などに、誰でも簡単に学校へ入っていけない。地域に仮に学校が無くなったとしても、別のコミュニティの生成等について考えていくことも重要ではないか。

「みんなの食堂」は多世代や保護者同士が交流できる地域コミュニティの場となっている。情報提供です。

(委 員)

これは、こども家庭庁が進めているものだと思う。

(委 員)

仮に統合した場合、遠い地区だとバスやタクシー通学になると思うが、その時の体力の低下が気になる。

(委 員)

例えば、ある程度の距離をおいて乗降車場を検討するなどの必要があると思う。まだ先の話と思うが、そういった課題も考えられる。

(委 員)

中学校が統合を検討する際に、他の市町村のように小中を一緒にするといった話がなかったのか。他所では行っているところもあると思うが、一緒にしなかった理由はあるのか。

(委 員)

検討時にここまでの出生数の減少はなかったと思う。

(委 員)

お金が無いという割に、小中学校別で統合するとなると、お金がもっとかかるのではないかと思う。検討の際に、小学校と中学校を一緒にする意見はなかったのか。

(委 員)

一貫校の話もあったが、地域から今以上に小学校を残してほしいという声は強く、それなりの児童数もいたため、一貫校とはならなかった。

(委 員)

丁寧に進めることも大事だが、中学校の統合では7年という時間がかかっている。少子化も進んでいる。だからこそスピード感が必要だと思う。

(委 員)

中学校統合の際に、地域説明会に参加したが、津久見の保護者は関心が薄いことをすごく感じた。地域の方の参加がない小学校もあった。意見の出ない学校もあった。先日の千怒小の改修工事の説明会も参加者が少なかったと伺った。地域の方に興味を持っていただけるような工夫が必要だと思う。

(委 員)

千怒・津久見小学校が非常に老朽化している。そこを大規模修繕する際の物価高や人件費の高騰を考えたときに、スケジュール通りにできるのか。放課後児童クラブも環境が良くない。ハード面はある程度一気にやらないといけない。またプールの水が原因不明で抜け、地下水で冷たい学校もある。管理面でも職員の負担になっている。

(委員長)

ほかにご意見等ありますか。⇒ (なし)

それでは、本日の意見交換をこの程度としたいと思います。

(7) 今後の予定についての説明(事務局)

(事務局)

資料 8より、今後の予定を説明。

(委 員)

今後もこの時間に開催を予定しているか。

(事務局)

その予定にしております。

(委 員)

もう少し遅めの時間の方が保護者も参加しやすいと思う。

(事務局)

検討させていただければと思う。

(委員長)

議事を終了し、進行を事務局に戻す

(そ の 他) 事務局より事務手続きについて説明。

教育長 謝辞

今日の会議での意見を聞くと、スピードは、もっと速くしなければいけないという危機感を感じた。都度、市長部局と内容について共有したいと思う。

送迎による体力低下が心配という意見があつたが、これははっきりしていて、大分市の子どもの体力結果が良い。やはり送迎の結果、子どもの体力は低下している。そういった事も踏まえながら、学校教育の質も担保していかなければならない。また、今は点数の学力だけではない。思考・判断・表現力、そして学びに向かう力、人間性の向上、それらを含めて学力だと学校教育法で記されているため、人間教育をする、そのベースになる小学校をどう作っていくのかを一緒に検討していきたいと思う。

本日は、ありがとうございました。

閉 会

以上が本検討委員会の内容となりますので、ご報告いたします。

会議録作成者 管理課 佐藤 ひかり

[議事録署名]

上記に記録した会議の顛末は、真正であることを確認する。

署名委員

松本

晃